



社会医療法人
さいたま市民医療センター

Saitama Citizens Medical Center

**初期臨床研修プログラム
総合診療専門研修プログラム**



心と命をつなぐ、 ホスピタリティを

さいたま市民医療センターは
「患者中心の医療を目指す総合医」と
「専門的技術と視野を兼ねた専門医療支援」の
ホスピタリスト(病院総合医)による医療の実践を
目標としています。

厚生労働省の基準案に従った
ローテート方式による臨床研修プログラムを策定し、
地域医療の実践的かつ幅広い研修が可能な
初期・後期研修医のための研修プログラムを作成。
その研修理念は、深い人間性に基づいた
優れたプライマリ・ケアの臨床能力を修得した
医療の提供ができる医師の育成です。
研修医が将来どの方向の専門医に進んだとしても
ジェネラリストとしての理念を保持できる教育を提供します。



開設	平成21年3月1日
運営方式	さいたま市が建物等を整備し、社会医療法人が運営する公設・民営方式
病床数	340床(回復期リハビリテーション病棟47床含む)
診療科目	内科 外科 小児科 呼吸器内科 消化器外科 泌尿器科 循環器内科 乳腺・内分泌外科 耳鼻咽喉科 消化器内科 整形外科 リハビリテーション科 腎臓内科 脳神経外科 放射線科 血液内科 アレルギー科 病理診断科 糖尿病・内分泌内科 リウマチ科 麻酔科 脳神経内科 救急科

プライマリケア研修に適した
たすきがけプログラム

患者数が多く
幅広い臨床経験が積める
恵まれた環境

自治医大との連携により
一般的な疾患のみならず
高度先進医療も学べる

当センターは自治医科大学附属さいたま医療センターの協力型臨床研修指定を受け、2014年以降ホスピタリスト重視プログラムのたすきがけプログラムを担っています。この教育経験を活かし、切れ目のない初期・後期臨床研修医のためのプログラムを策定し、深い人間性を持ち、優れたプライマリ・ケアの臨床能力を発揮する医師の育成をめざしています。

340床の規模で年間入院患者6,000人以上、救急車搬送年間約5,000件の救急収容能力を持ち、小児救急車搬送はさいたま市の約3分の1を受け入れています。当センターは内科医全員に総合診療経験があり、総合内科と救急部の一体的な運営や、外科では多くの緊急手術患者を経験できます。さらに少子高齢化先進地域にある病院のノウハウを投入するなど、次代の医療を担うための経験を積める環境を形成しています。

研修プログラムには協力型臨床研修病院として自治医科大学附属さいたま医療センターを組み入れ、高度先進医療を経験し学べる機会も設けています。当センターでプライマリ・ケア疾患としてのcommon diseaseを多数例経験し、大学附属病院の高度先進医療を学ぶ。これにより医師個人の能力のさらなる拡大を図ることで、現代の医療の質と量の偏在の問題を解決することを目指しています。

prologue
Saitama Citizens
Medical Center

時代に求められる医師の育成を

病院長 加計 正文

現代社会において、医療の現場に求められているものは大きく変化しています。それでも変わらないのは患者さんのためになることを尊重する医師としての倫理です。しかしながら、超高齢化、複雑化する社会において、その倫理を追求するには多様な能力が必要となっています。この多能性医師、すなわちホスピタリストを育成することが、当センターの臨床研修プログラムにおけるミッションだと考えています。多能性には患者さんとの信頼関係を築く力も含まれています。またこれからは、チーム医療が必須であり、協力し尊重し合うという能力も求められています。そういった時代に求められる医師に皆さんにはなって頂きたい。のために、スタッフが一丸となって皆さんの研修成果の最大化、キャリア形成をサポートしていきます。



プログラム統括責任者

時代のニーズに応えられるジェネラリストを育成します

副院長／内科 石田 岳史

超高齢社会において、医療の現場に対するニーズも変化しています。具体的には、患者さんが複数の疾患を抱えているケースが増加しているということです。それには広い視点から深く診ることができる医師、つまりジェネラリスト、ホスピタリストが求められています。患者さんの疾患が複雑化する中、患者さんのためを第一として、それぞれの分野のプロが議論し合い、最適な処置を行うというチーム力も求められています。当センターの研修を通じて、時代に求められている医師として力がつくようサポート致します。



初期臨床研修プログラム責任者

どこに行っても活躍できる、医師としての基本が学べます

救急総合診療科科長 坪井 謙

当センターの研修プログラムは、『患者さんを診る力をつけること』を基軸としています。それは、赤ちゃんから100歳以上の方、病気、怪我、子供を診られるジェネラリストを育てるということです。そのため、内科、外科、小児科そして、救急をしっかり学んで頂きます。今後皆さんが専門医、総合医、小児科医と、どの道を選ぶにしても、患者さんを診るというその基本は変わりません。その土台を築くことが必ず皆さんの将来的なキャリア構築に役立つと信じており、スタッフ全員が研修医の方々の指導にコミットしています。

初期・後期研修医と指導医が語る



初期臨床研修医

**職種間の距離が近く、
技術力とともに人間力も磨かれます**

島崎 幹夫

大学で情報画像工学を学んでいましたが、将来を考えるうちに、研究職ではなく専門分野を活かして人と接する仕事に就きたいと思い、医学部へ入り直しました。当センターを選んだのは、恩師が自治医大出身だったので自治医大附属さいたま医療センターと連携していたことや、地元が近いさいたまの地域医療に貢献したいという想いがあつたからです。

当センターの職員は職種間の垣根がなく、他科の先生や他職種へも質問がしやすいことが魅力です。でも頼りきりにならないよう、まず自分で先に調べることを心掛けています。入職してまもなく1年が立ちますが、救急外来ではファーストタッチから関わり様々な診療科を回って経験を積み、力がついたと感じています。

さいたま市民医療センター



指導医

患者さんの利益を基準として判断する力を

循環器科科長 中村 智弘

研修医の方にはできるだけ現場で責任を持つもらうようにしています。実践に基づいた経験を積むことが成長に繋がるからです。しかし、ただ任せるというのではなく、上級医とのコミュニケーションが常に取りやすい環境がここにはあります。循環器科では、患者さんを診てから毎日相談し合うようにしていますし、電話も24時間繋がるようになっています。

当センターには複雑な社会的背景、様々な疾患をお持ちの患者さんがいらっしゃいます。多様な患者さんと向き合うという経験を積むことは、今後皆さんがどの病院で活躍されるにしても、将来的に医師としてだけでなく、人間としての深みを増すことに繋がると信じています。

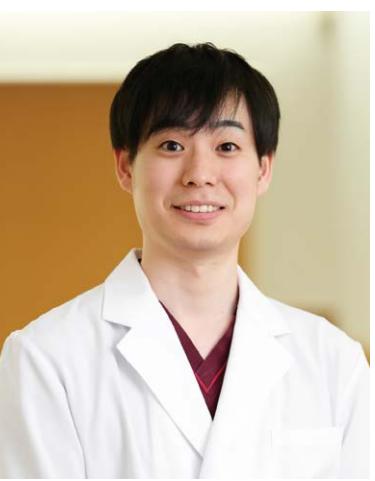
初期臨床研修医

自分の家族も安心して任せられる病院です

古川 航多

地元さいたまで医師をしたいという希望と外科や小児科への興味から、外科の手術件数が多く、さいたま市の小児救急輪番制を週3日担当している唯一の病院だった当センターを選びました。

入職して始めて聞いた「自分の家族を診るように患者さんを診なさい」という指導医の言葉通り、当センターの医師は治療からリハビリケア、地域の介護・福祉と連携して退院後のサポートまで関わるなど、患者さんをとても大切にしています。私は祖父を当センターに紹介しましたが、親身になって治療プランを立てていただき、看取るまで良くしていただきました。自分の家族を安心して任せられる病院というのは実は少ないのではないかと思うので、ここで学べて本当に良かったと感じています。



指導医

小児の初期研修の場として最適な診療の最前線

小児科科長 古谷 憲孝

当センターでは小児の二次診療を数多く受け入れており、初期研修では救急外来で3人目の小児科医として当直を担当し、発熱や痙攣を起こした子どもに対して、上級医の指導のもとで診察・検査し入院の判断を行います。病棟では診療チームに属して川崎病、感染症、IgA血管炎などの検査・治療を行います。多くが1~2週間で軽快する疾患なので、入院した子どもが元気に駆け回って退院する姿を見送ることができます。長期治療と判断すれば、大学病院や小児病院へ紹介するので、三次診療機関との連携も学べます。診療の最前線で疾患の季節変動や治療の変化を感じながら、未来ある患者さんに自分が何をすれば良いのか、他の医師や施設とどう連携すればよいかを学んでください。



後期臨床研修医

興味が湧いたらすぐに実践できる環境です

板垣 健介

後期研修に入ると医師としての責任の重みが増しますが、上級医が助言をくださるなどきめ細やかなフォローがある体制です。研修プログラムも融通が効き、たとえば「内視鏡をやってみたい」といった要望や興味がある分野を伝えると、すぐに実践できるように対応していただけます。さらに自分が苦手だと感じる部分があれば、特に時間を取っていただき重点的な指導を受けられるなど、手厚さを感じています。まさに育ててくれる雰囲気があります。

医局内の雰囲気も良く、診療科に関わらず気軽に相談に乗ってくださる先生ばかりです。毎日のモーニングカンファレンスでは、各専門の先生方の見解や幅広い症例を聞くことができるので、とても有意義な時間になっています。



指導医

短い期間でより多くの手術を経験できます

外科副部長 小峯 修

市中病院の特性から、当センターの外科は規模の割にたくさんの症例、手術を実施しております(年間700~750ケース、その内、緊急を要する手術は約250~300ケース)。その機会に立ち会える、手術に参加できるということは、短い研修医時代に貴重な経験をより多く学べるということです。実際の手術に臨んで学ぶことは膨大です。知識・手技はもちろんですが、肉体的にも精神的にも集中力、タフさを必要とします。そして手術で最も大事なことはチームワークです。その為にはコミュニケーション能力が求められるので、いろいろな経験を積んで視野の広い価値観や豊かな人間性を育んではほしいと思います。

初期臨床研修プログラム

ホスピタリストの養成を目的とし、
研修医の意思も考慮した弾力性のある構成



《研修体制》

卒後7年以上の実質的な上級医を各診療科に配置し、うち1~2名が指導医となります。指導医は、2年間を通じての評価と指導はもちろんのこと、さらにメンターとして医学・医療以外の生活面や社会面での幅広い相談に関わる体制としております。

《オリエンテーション》

診療開始前に約1週間のオリエンテーションを行い、実際の診療に必要な項目を説明・解説します。

- | | | |
|------------------|----------------------------|--------------------|
| 1.センターの理念と研修の目的 | 5.診療録の書き方と病歴管理 | 9.在宅医療・福祉・介護 |
| 2.研修カリキュラムと研修の評価 | 6.死亡診断書の書き方、剖検のとり方(剖検室の見学) | 10.救急患者への対処の仕方 |
| 3.医療事故と安全管理 | 7.コンピューターオーダリングシステム研修 | 11.処方箋の書き方と薬剤の基本知識 |
| 4.感染対策 | 8.保険診療 | 《体験講座》他職種の仕事の実態見学 |

《研修カリキュラム》

4~12週で1クールのローテーション方式。ローテーションする順番は研修医全体のローテーションの中で決定するため、順不同です。

2年間の研修進捗管理を行い、臨床研修目標が到達可能となるよう配慮します。

●指導医とのマンツーマン方式



プログラム期間中の2年間は、モーニングカンファレンス・回診、各診療科のカンファレンスへの参加が必須になり、CPCを最低1回担当し、発表を行います。

毎月1回開催される地域医療機関との合同症例検討会で症例発表を行い、学会発表を複数回経験することも必須です。

給与 1年次40.7万円/月(当直手当含む) 賞与 76.3万円/年



《患者の受け持ち》

最大8~10名までを受け持ち、指導医や時にはシニアレジデントとともに担当医として診療にあたります。最終的な診療上の責任は指導医にあります。



●指導医とのマンツーマン方式+各診療科の指導医が参加する場合あり



必修	内科、外科、地域医療、小児科、精神科、産婦人科、一般外来(内科との並行研修)
選択必修	泌尿器科、整形外科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科から3科12週
自由選択	上記科目+脳神経外科、リハビリテーション科より12週

《協力病院・施設での研修》

- 産婦人科 (4週) : 自治医科大学附属さいたま医療センター、さいたま市立病院
- 精神科 (4週) : 埼玉精神神経センター
- 地域医療 (4週) : 南魚沼市民病院、さいたま北部医療センター

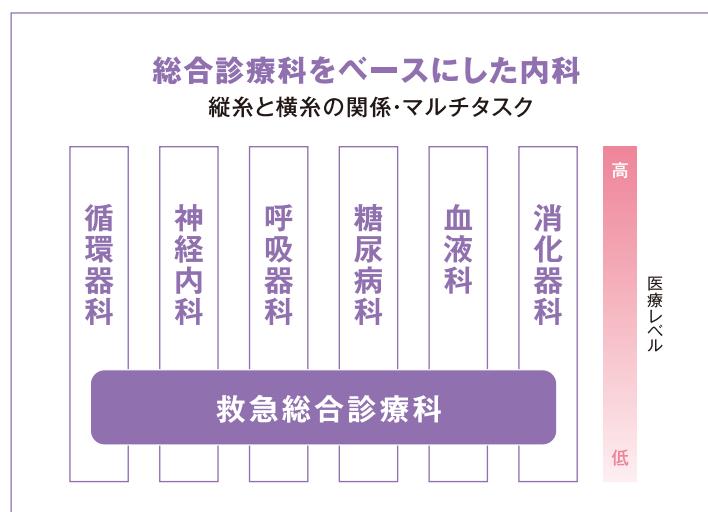
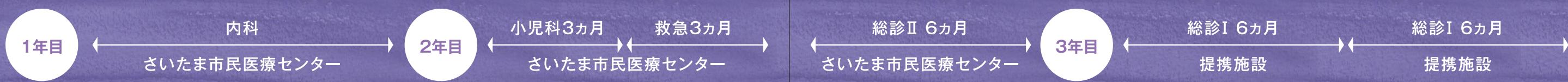
給与 2年次46.3万円/月(当直手当含む) 賞与 152.7万円/年

総合診療専門研修プログラム

高いプロフェッショナリズムと
コミュニケーション能力を兼ね備えた
“患者の軸”になれる医師に

2018年度から疾患管理の軸になれる医師の育成をスタート。救急総合診療科に属して急性期内科系疾患の管理を中心に学び、小児科、地域医療などをローテートし不足部分を補います。診療所、地域医療支援病院から大学病院まで、置かれた場所で活躍できるアカデミックな総合診療専門医を目指せます。

当センターは日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラムVer2を有しており、2018年からは日本専門医機構認定総合診療専門研修プログラムも開始しました。首都圏の政令指定都市で救急総合診療科を中心に研修し、一方でへき地医療や都市部の在宅医療も経験できるプログラムです。多様な疾患を通じて内科の基礎を学び、また、小児から高齢者、疾患から外傷まで幅広く経験できます。研修終了後に、総合診療専門医の受験資格が与えられます。



《指導体制と特徴》

当センターの内科系指導医は全員総合診療の経験を有し、かつサブスペシャリティの専門医として臓器別専門内科を担当しています。ERと内科を一体運営し、臓器別内科の壁を設げずに“内科”としており、救急外来から急性期病棟、回復期病棟までシームレスな診療を行います。治療方針は内科系医師全員が一堂に会する毎朝のカンファレンスで決定します。臓器別内科チームが縦糸、救急総合診療科が横糸となり、患者毎に最適なチームを構成する体制は、幅広い地域を研修すべき総合診療専門医研修に最適なシステムであると自負しています。

《シミュレーション教育と電子教科書》

シミュレーション教育として、BLSやICLS、JMECC(内科救急・ICLS講習会)を院内で開催。Saitama Stroke Networkの基幹病院に認定されており、ISLS(Immediate Stroke Life Support 神経救急蘇生)も実施し、救急総合診療科ではt-PA投与から脳血管内治療まで主体的に行ってています。電子教科書は欧米のホスピタリストも用いているUpToDate、英文臨床雑誌や教科書が読めるClinical Keyや今日の臨床サポートを採用。また、抄読会としてACP(米国内科学会)journal clubを毎週実施しているほか、埼玉プライマリ・ケア連合研究会などで開催されるポートフォリオ発表会に指導医と共に出席し、ポートフォリオの作成に関わります。

《地域医療の実践(総合診療I)》

当センターでは役割分担をしており、成人の「病気」は内科が担当し、成人の「ケガ」は外科が担当していますが、総診Iでは一人ですべての疾患に対応する能力を身につけます。地域医療のプログラムとしてへき地医療の実践にも力を入れていて、兵庫県の公立浜坂病院や公立村岡病院、新潟県の南魚沼市民病院で地域包括ケアシステムの実際を学びます。(希望に応じてさいたま市内の実施も可能) そのほか、明医研ハーモニークリニックと連携し病院医療から在宅医療へつなぐTransitional Careの研修もあります。さらに、希望に応じて日本医師会認定産業医の資格を取得したり、DMATの隊員に加わり災害医療の訓練を受けることも可能です。



《提携施設》

- 医療法人明医研ハーモニークリニック
- ちづるファミリークリニック
- 公立浜坂病院
- 公立村岡病院
- 南魚沼市民病院

- 自治医科大学附属さいたま医療センター

《カンファレンス》

- モーニングカンファレンス : 毎朝、内科系医師全員で全ての新入院患者を対象にディスカッションを行っています。
- 内科総合カンファレンス : 毎月曜日、興味深い症例を検討しています。
- ケーススタディー : 第2月曜日、他病院・医師会の先生方を招き、臨床推論のオープンカンファレンスを開催しています。
- 外部講師による院内講演会(数回/年) : 外部講師を招いて講演会を実施します。
- 放射線読影カンファレンス : 放射線専門医によるレクチャーを実施しています。
- 心エコーカンファレンス
- 心臓リハビリテーションカンファレンス(多職種カンファレンス)

給 与 1年次 55.6万円/月 2年次 56.9万円/月 3年次 58.2万円/月

賞 与 1年次 103.1万円/年 2年次 176万円/年 3年次 181万円/年

選択科目

《整形外科》

上級医とペアを組み、指導を受けながら病棟・外来での業務や手術を通して、整形外科の基本的知識、技術の習得を目指します。当科は初期研修にて選択が可能で、期間中に本人の希望があれば、他病院の見学や学会などへの斡旋・紹介も積極的に行います。

《泌尿器科》

人口の高齢化に伴った泌尿器疾患(前立腺肥大症、前立腺癌、尿失禁など)の増加により、泌尿器科の臨床的需要は増大傾向にあります。初期研修時の目標は泌尿器科領域のプライマリ・ケアならびに泌尿器科特有の基本的検査、治療手技、診断知識の取得です。泌尿器科指導医による研修の下、短期間に習得できるカリキュラムを考えています。

《耳鼻咽喉科》

急性気道疾患やめまい疾患のプライマリ・ケアを学ぶことができます。具体的には、各検査や処置の習得を目指としたカリキュラムを考えています。また、実際の手術(鼓室形成術、鼻副鼻腔内視鏡手術、口蓋扁桃摘出術をはじめとする頸部良性手術)に参加することにより、局所解剖や各疾患についての理解を深めます。

《病理診断科》

内科や外科などから提出された検体の切り出しの仕方や病理診断の仕方を習得できます。病理解剖では病気で亡くなられた患者さんの病気の状態を、肉眼所見と顕微鏡所見から学ぶことができます。

設備・待遇・条件



エントランス



DMAT



リハビリ室



手術室

疑問にお答えします!

Q & A

さいたま市民医療センターで研修医に!
でもその前にちょっと気になる、よくある質問にお答えします。

Q1 研修スケジュールはどのように決まりますか?

A1 研修医の希望を聴取し、考慮したうえで2年間の研修プログラムを提供します。必修、選択必修は2月頃までに予定を立てます。相談による変更も可能です。

Q3 研修中に当直はありますか?

A3 月平均4回程度あります。当直体制は、病棟と外来ともに対応し、内科系2名、外科系1名、小児科1~4名で組んでいます。

Q5 初期研修終了後の進路状況を教えてください。

A5 希望すれば採用試験があります。当センターで総合診療専門研修プログラムの専攻医として2名まで研修を継続することができます。他の研修病院で後期研修を行うこととなった場合は、研修先の病院を探していただきます。

Q2 研修中の職場設備について教えてください。

A2 研修医用机、本棚、図書館、院内で可能なインターネット環境があります。今日の臨床サポート、Up To Date、医中誌、メディカル・オンライン、clinical·keyが常時利用可能です。

Q4 宿舎はありますか?

A4 借り上げの宿舎3棟をご用意しています。宿舎にもよりますが、月額10,000円程度で利用できます。

Q6 みなさんの通勤方法を教えてください。

A6 職員寮から通われる場合は車通勤不可のため、自転車を利用される方が多いです。徒歩では7分程度の距離です。寮以外から通われる場合は車を利用される方が多く、駐車場代は月額2,000円必要です。

▶ 勤務条件

【勤務時間】午前8時30分～午後5時30分 ※週40時間勤務

【当直】月平均4回

【休日休暇】日曜日、祝祭日、年末年始(12/29～1/3)、夏季休暇3日間、年次休暇(年間20日間、初年度は10日)、忌引き休暇等

▶ 社会保険等

【社会保険等】労働者災害補償保険、雇用保険に加入

【健康管理】定期健康診断、B型肝炎・インフルエンザ等の予防接種

【医師賠償責任保険】病院で負担(初期研修のみ)

▶ 研修中の外部活動

● 外部研修活動 学会、研究会への参加可。学会発表または研修等のための出張の承認を得られたときは旅費を支給

● 外部診療活動 研修期間中は外部の診療活動(アルバイト)は禁止(初期研修のみ)



職場設備

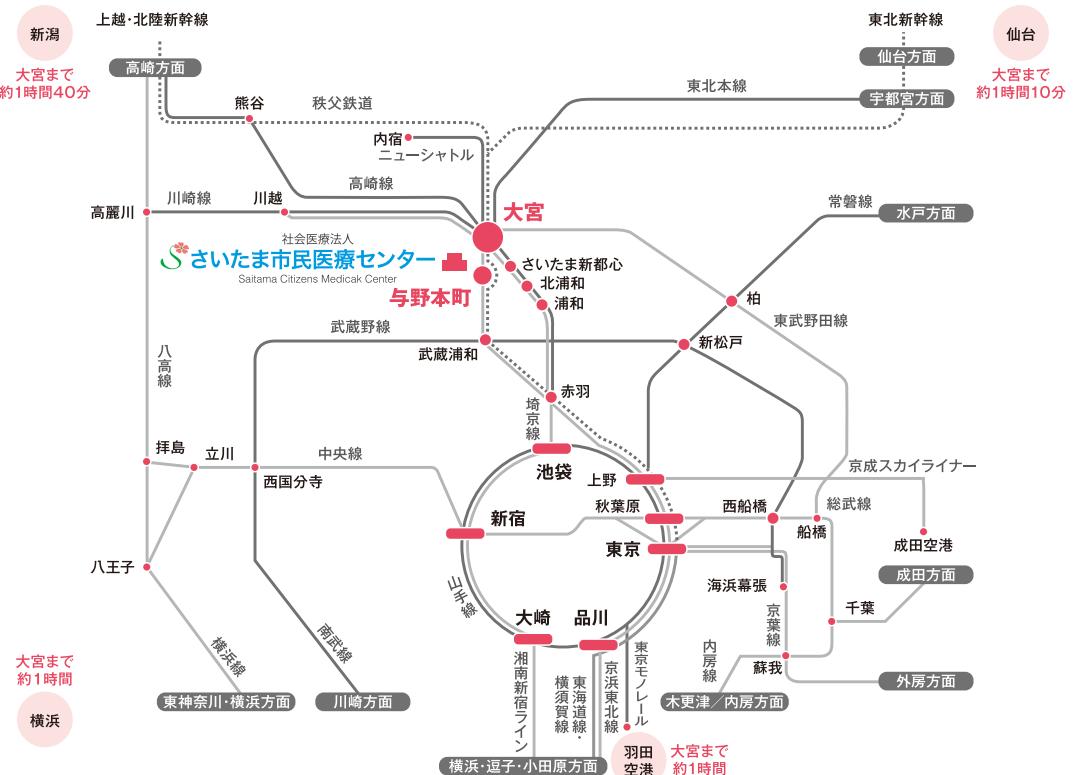


食堂



宿舎

交通路線図



アクセス



Saitama Citizens Medical Center

〒331-0054 埼玉県さいたま市西区島根 299-1

[お問い合わせ先]

TEL.048-626-0011(代表)／FAX.048-799-5146

E-mail. soumu@scmc.or.jp

(窓口：事務部総務課 採用担当)

募集詳細はHPをご覧ください <http://www.scmc.or.jp/>

さいたま市民 研修医

検索

